



ご支援総額

2023年8月18日までの寄付総額

124,746,310 円

寄付金使用総額

3370887.06 zł (約1億113万円)

8/14(月)～8/27(日)の期間中の寄附金使用額

12501.58 zł (約38万円)

8月14日(月)～8月27日(日)の支援活動

食材支援 (毎週金曜日) ※祝日等で変動あり

一人あたり50złの予算を設け、1週間分の昼食用食材の購入を支援。

8月18日(金) 23家族が参加 合計 2965.48 zł (約10万4千円)

8月25日(金) 24家族が参加 合計 3162.94 zł (約11万円)



ミサンガ作り (週二回)

日本の支援者の方へお渡しするお礼の品として、避難民の方と週2回ミサンガ作りを実施。

毎回、9～12名の子どもと女性が参加しており、7月上旬に日本に発送した第一弾 (5000本以上) に加え、すでに1800本以上のミサンガが完成している。

これらは、第二弾として9月中旬ごろに日本に発送される予定。



ITビジネス言語 ポーランド語研修 7/4 ~ 8/17まで

独立行政法人国際協力機構（JICA）の後援のもと、ワルシャワに滞在しているウクライナ避難民100名を対象としたITビジネス用語のポーランド語研修（オンライン）を実施。

研修最終週には、終了式を実施し、関係者による挨拶と、同研修参加者代表からお礼の挨拶が述べられた。

研修参加者から、同研修が更なるキャリアアップに繋がったと感謝の声が寄せられた。



現地の動向

ウクライナ避難民のポーランドにおける社会保障の現状

ウクライナ避難民の多くが、ポーランドの社会保障、特に、「500+」^{*1} や「ファミリーキャピタル」^{*2} といった育児のための社会給付を打ち切られている。

Yapl（ウクライナ人向けのポータルサイト）によると、2023年5月以降、ポーランドのZUS（社会保険）は、ウクライナ避難民の子どもに対するこれら手当の支払いを、6000件キャンセルしたという。

さらに、18000件の支払いが一時的に停止された。

手当のキャンセル・停止の理由は、ウクライナ避難民がポーランドを離れることが多くなったためである。

しかし、キャンセルされた手当は、場合によっては権利者に再度返却される場合もある。

2023年5月以降、ZUSは7000人の避難民のために、手当のキャンセル・停止を回復させた。

これは、ポーランドを出国して30日以内に戻って来た場合、もしくは難民として再登録した場合にUKR（ウクライナ人の一時的な保護を認める公式文書）に再登録されるというケースが適用されたためである。

長引く避難生活に疲弊し、一時的にウクライナに帰国したり、自宅の掃除の為に一時帰国するウクライナ避難民も少なくなく、このような社会保障を受け続けるため、多くのウクライナ避難民が30日以内でのポーランドーウクライナ間の往復を続けている。

^{*1} 扶養している子供がいる家庭は、その家庭の収入に関係なく、18歳までの子供1人につき500PLN/月が支給される養育手当。

^{*2} 生後12ヶ月から35ヶ月までの家族の2人目以降の子供1人につき、最大12,000PLN/年が支給される手当。